

①授業から学んだこと

私は、実際に現場で授業をしてみて、普段からの生徒との関わりの大切さを学ぶことができた。私は単元のキリが良いところから授業をさせていただいたので、2週目から授業がスタートした。なので、それまでの1週間で、1年生の全クラス（3クラス）の授業を何度も見学しに行き、休み時間にも生徒とたくさん話して、関係を構築することができた。そのこともあり、最初の授業からこちらに体を向けて話を聞いてくれる生徒が多かったような気がする。ありがたいことに「先生頑張れ！」という空気感をつくってくれる生徒が多く、とても授業がしやすかった。

あとは、生徒と対話しながら授業をつくり上げていく楽しさというのも学ぶことができたと感じている。時間が足りず焦ってしまうと、これができなくなってしまうのが自分の課題であるということにも気づくことができた。また、自分が楽しいだけでなく、生徒の授業に対する理解度や興味・関心を高めるためにも、対話は必要であると考えた。授業のリズム感も、対話から生まれてくると思うので、現場に出た際には、生徒と対話することを心がけた授業をしたい。そのためにも普段からの生徒との関係を大切にできる教師になることを目標にする。

②生徒との交流のなかで学んだこと

私はこの実習で、明るい表情をすることや、笑顔でいることを心がけていたので、生徒たちも笑顔で接してくれる子が多かったように思う。表情や、明るい雰囲気、安心できる雰囲気は伝播していくのだなと、子どもたちを見て、改めて学ぶことができた。最後の寄せ書きや手紙にも、表情のことを書いてくれている生徒が多かったので、意識してよかった。

あとは、私が生徒のことを知ろうとすれば、その分生徒も私のことを知ろうとしてくれるのだなということも学ぶことができた。こちらが興味を示さなければ、もちろん生徒の心もこちらに向くことはない。なので、生徒たちのことを知って、理解しよう、という姿勢を崩さない先生になりたいと思った。

③職員室の様子、教員の仕事、先生から学んだこと

私がホームルームで入らせていただいた2組の担任の先生は、朝の職員会議が終わるとすぐに教室に行くことを心がけている方だった。なるべく教室にいて、生徒たちを見るようにしているようだ。朝早く来て教室の黒板に連絡事項を書き、時間があるときには2組の教室に行く。こうして、何か変化はないか、生徒の様子はどうか、といったことを毎日欠かさずチェックしていた。

1年2組の教室は、水筒は後ろに置く、机はキチンと揃える、机の横に物を掛けない、など、分かりやすいルールをいくつか決めていて、それによって生徒自身に教室整備・持ち物の管理をさせていた。学年で一番きれいな教室だったと思うし、落とし物も少なかった。メリハリをつけさせることも、いつも徹底して行っていて、これらのことから「普段から」を徹底させる大切さを学ぶことができた。

④事前に立てた目標及び課題について

私は、「とにかく生徒と関わること」「生徒の声に耳を傾けること」を目標に実習に取り組んだ。「授業のクオリティを上げる」ということも大切だと思うが、授業のクオリティを上げる方法としては、他の先生方から知識を伝授してもらったり、大学の授業でテクニックを学んだり、自分で本などを読み勉強したり、といったことも挙げられるだろう。だが、生徒との関わりは、学校現場でしか体験できない貴重なものであると私は思った。なので、この2つを目標として、教育実習に取り組んだ。

生徒とたくさん関わる事ができたから、授業やホームルームを円滑に進めることができたし、生徒の声に耳を傾けることができていたから、授業中に生徒がたくさん発言してくれたのだと思う。このことから、私の自己評価にはなってしまうが、実習でこれら2つの目標を達成することができたのではないかと思う。

⑤教育実習全般にわたって

私はこの3週間の豊中市立第8中学校での実習を通して「先生になりたい」という気持ちが以前よりも強くなったし、なによりも子どもたちと関わるのが楽しかった。就職してしばらくしてから、と考えていたけれど、今すぐにでも学校現場に入りたい、という気持ちで終えることができた実習だった。

1年生の英語科の先生が、一般企業で数年務めてから教師になった方だったので、少しお話を聞いたのだが、「社会科の先生なら、特に一般企業の話とかも子どもたちにしてあげられるのではないかな？2,3年後に戻ってきてもいいと思います。待ってるよ。」と言ってくだった。

将来、教師になる生徒よりも、一般企業で就職する生徒が多い。また、私は要領がよくないので、自分が実際にやってきたこと、勉強してきたこと以上のことを人に伝えるのが難しいと常々感じている。なので、まず一般企業に就職してから先生になって、見聞を広め、自分自身の経験から、よりたくさんのかを伝えられる教師になりたいと思う。

⑥その他

実習中、たくさん生徒と話すことを心がけていたが、生徒1人1人の特徴を、3週間の中で全てつかみ切ることができなかった。担任の先生があらかじめ生徒たちの特長を大まかに教えてくれていたので、私はその情報を前提に生徒と接することができた。

だが、実際に現場に出たら、教師間での情報共有はあるだろうが、自分の目でしっかりと生徒がどんな子どもなのかということを見極める必要があると思う。なるべく早く生徒

たちがこういった特徴をもっているのかということをも自分の目で確かめるためには、やはり教室にいる時間を多く確保したり、生徒との関係性を大切にしたりと、教師の姿勢が重要なポイントになってくるのだろうなと思う。